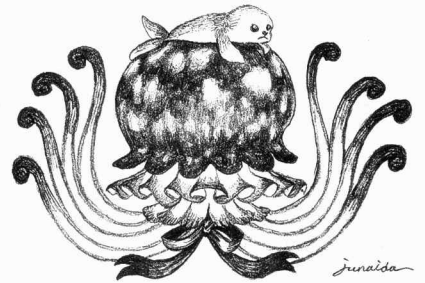


朝日 歌壇 俳壇



〈日曜日のプローチ 22〉 junaida

うたをよむ 俳句甲子園での注目句

村上 朝彦

八月二十二日から二十四日まで、松山市で第二十八回俳句甲子園全国大会が開かれ、私も審査員として参加した。三十二チームが俳句の出来栄をディベートを競い合い、神奈川県立横浜翠嵐高等学校が初優勝を果たした。

個人賞は学習院女子高等科二年・本間まどかさんの句が最優秀賞に選ばれた。天に地に鶴の尾の触れずあり

鶴の尾の上下動を格調高い措辞で大らかに詠み切ったことが評価された。

この最優秀賞の選考会は、大会初日に行われた。事前に提出された句は千二百余。そこから十三人の審査員が一押しの一語を決めて持ち寄り、盛んに意見を交わした。その過程で、俄然輝きを増してくるよう感じられたのが、この「天に地に」の句だった。最終的に全員の承認の上でこの句に決まってみれば、最初からそうなるのが当然であったかのよう

真価が発揮されることもあるのだ。私の一押しは岩手県立水沢高等学校三年・中澤美賀さんの次の句だった。天牛の孤独に湖の広がりぬ

「孤独」と言いつつも閉鎖的に暗く沈むことなく、大景へと転換した鮮やかさに惹かれた。その他に、山形県立山形東高等学校二年・東海林あやさんの鶴は薄き未来を走りをりにも注目した。「薄き未来」が魅力的だが、解釈の振れ幅が大きすぎるかと思っただので一押しからは外した。もし選考会で採んでもらったら、大化けしていたかもしれない。

(「南風」主宰、俳人)

堀本裕樹・桃山鈴子著「六四五七五 虫の絵と俳句」50の名句に、俳人の解説・鑑賞文と画家の細密画を配した総カラーの画文集。俳句は、「蝶 ルリタテハ」の項では高浜虚子の「山国の蝶を荒しと思はずや」を、「蜂 ムモンホソアシナガバチ」の項では鷹羽狩行の「蜂が来る火花のやうな脚を垂れ」を採りあげている。(毎日新聞出版・3300円)

風信

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合もあります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(選り2月5日まで)。QRコードから

● 高野 公彦 選

穏和、緩和、平和、和解と和の熟語考えていたら涙零れた (坂出市) 吉田百合子

真珠湾は十二月七日原爆は八月五日のアメリカで黙禱 (アメリカ) 大竹幾久子

原爆ドーム掲げる新聞キオスクに並べてパリの八月六日 (フランス) 佐久間尚子

家の作りこれでいいのかこの猛暑兼好法師にいちど訊きたい (宇都宮市) 手塚 清

旧型の市電をふたつやり過越し冷房付きの新型を待つ (札幌市) 田巻 成男

離乳食刻みし手なり今夫の介護食材みじんに刻む (下野市) 若島 安子

大戦でホロコースト受けし民族の子孫が向かうヨルダン川西岸 (五所川原市) 戸沢大二郎

店員にスマホが違者と褒められて「老人枠の人」と自覚す (三原市) 池田 桂子

☆怖そうな群馬の女になつて初めマムシを殺めし朝は (安中市) 岡本千恵子

廃線のホームにひとの影はなく狼の親子が夕日にすわる (西条市) 村上 敏之

【評】1 首目、世界平和の熱い願いが伝わってくる。2 首目と3 首目、世界のどの国にも過去の戦争への意識は強く存在するようだ。4 首目、徒然草の第五十五段にある「家の作りやうは夏をむねとすべし」という言葉を踏まえた作。

● 永田 和 宏 選

こんなもの買う人なんているのかと思ったものだボトルの水よ (東京都) 西垣 郁子

眠られぬ夜のラジオに特攻を語る千氏の声が詰まりぬ (吉野川市) 喜島 成幸

閉店が日の入りとある海際の喫茶店のレモンスカッシュ (倉敷市) 新居 潤子

竿竹屋ちりがみ交換バキュームカー音も匂いも騒がしきころ (東京都) 富見井高志

法師蟬大雪山麓に鳴き出したしプラキストン線は宗谷の北に (北海道) 高井 勝巳

山刀伐も猿羽根も蟬の声みちて芭蕉の句碑は深緑の中 (仙台市) 沼沢 修

去年まで並び眺めし子の部屋の窓ひとりの目め打上火花 (合志市) 岩下 早織

絶えまなく過去へ落ちゆく砂時計戦後生まれが九割となる (つくば市) 橋本美知子

三種の神器金印ゲットする日本れきしのすくろくあそび (大阪市) 浅川 有純

居なへなるのは困るけど居ないのは心安らぐ妻の存在 (横浜市) 瀬古 修治

【評】西垣さん、わざわざ水を買うなんてと、我々世代はみな思ったものだが、たちまちそれが普通になってしまった。喜島さん、千玄室氏が語り続けた平和への思い。九首目浅川さんは小学一年生。瀬古さん、載った後の責任は負いませんで。

● 川野 里子 選

お義母さん収容所で産声上げた真女の息子八十路となります (宇都宮市) 上川加寿子

☆怖そうな群馬の女になつて初めマムシを殺めし朝は (安中市) 岡本千恵子

亡き君と来世はスピカに生まれた最後のキスは人工呼吸 (疎市) 海々 うみ

その先へ行つても行つても果てはないもどつておいで「鬱」といふ孫(生駒市) 辻岡 瑛雄

昇給の無きを伝える通知書は丈夫な紙で手がよく切れる (東京都) 栗生 翠

☆雪舟も描かなかつたアングルでドローンが映す天橋立 (東京都) 尾関 友詩

また同じ港に帰ってきたように全身麻酔から目が覚める (奈良市) 山添 聖子

閉店を決めたとたんに惜しまれて「祝開店」みたいな行列 (福島市) 亀岡 広子

朝々に小玉スイカは膨らみを増しては割れる炎天の下 (埼玉県) 広瀬 芳

百歳の夫婦二人のくりやからくつきり匂う魚焼く匂い (盛岡市) 山内 仁子

【評】一首目、大戦中の日系人収容所で誕生した夫。その命を守った義母への報告だ。二首目、マムシを退治して気づく自らの「群馬の女」の力だ。四首目、「鬱」の孫と心の風景を共にしながら気遣う。十首目、淡々と守られて来た生活の確かさ。

● 佐佐木 幸綱 選

熊の出る土地の職場へ通うなり首と腕にカウベル下げて (金沢市) 竹内 一二

背を向けて言葉投げ合う夫婦喧嘩スマホ越しなら子は気づくまい (柏市) 伊藤 智紗

☆雪舟も描かなかつたアングルでドローンが映す天橋立 (東京都) 尾関 友詩

自由研究に朱鷺を調べる子と在れば再び能登に舞ふ日待たる (羽咋市) 北野みや子

戦争を知らぬ我と子と孫もいて母の疎開の話を聞く午後 (箕面市) 遠藤 倫子

水槽に首まで浸かり身を冷やし現場に戻る消防隊員 (摂津市) 釜木 尚美

「ひとりでは出来ない」time tooと言いつて二人で励む自宅リハビリ(岡山市) 山本 昌子

裸電線消えてLED点く夜店焼蕎麦、焼鳥、鳥賊の焼き立て (長岡市) 柳村 光寛

本棚の昭和百年コーナーに思っく現在も下山事件 (神戸市) 澤田 効

万博のニュースの中に眼を凝らし警察官の我が子を探す (立川市) 土方 陽子

【評】第一首、職場に通う道に熊が出るらしい。えっという思いで読んだ。下句の表現、出色。第二首、スマホを使つての夫婦喧嘩という短歌を、はじめて読んだ。なるほど。第三首、雪舟の天橋立図は、京都国立博物館にある。